
令和6（2024）年度
美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

令和6年度

美術館教育普及報告書

目次

- 2 はじめに
- 3 本年度の取り組み
- 4 学芸員講座+キュレータートーク①
- 5 学芸員講座+キュレータートーク②
- 6 アーティストトーク・ギャラリートーク①
- 7 アーティストトーク・ギャラリートーク②
- 8 美術館ミュージアムツアー
- 9 慰霊の日関連催事
- 10 美術館・学校支援プログラム
- 11 鑑賞支援プログラム①
- 12 鑑賞支援プログラム②
- 13 児童・生徒の声
- 14 ボランティア活動
- 15 美術館 職場体験
- 16 学芸員実習①
- 17 学芸員実習②
- 18 教職員講座・教職員研修、その他研修の受け入れ
- 19 夏休み！こどもフェスタ 2024 ①
- 20 夏休み！こどもフェスタ 2024 ②
- 21 夏休み！こどもフェスタ 2024 ③
- 22 OKINAWA アートワークショップ 2024 ①
- 23 OKINAWA アートワークショップ 2024 ②
- 24 OKINAWA アートワークショップ 2024 ③
- 25 OKINAWA アートワークショップ 2024 ④
- 26 アートコンクール
- 27 アートコンクール（審査講評）
- 28 移動展 in 多良間村
- 29 令和5年度コレクション展後期「大城皓也修復報告展」
「大和コレクション展 vol.9 アートの愉しみ」「沖縄美術の流れ」
- 30 コレクション展「岸本一夫 オキナワデザイン」
- 31 コレクション展「沖縄の彫刻たち」
- 32 コレクション展「沖縄美術の流れ」
- 33 企画展『Oでも×でもないもの！』
～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～①
- 34 企画展『Oでも×でもないもの！』
～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～②
- 35 企画展『Oでも×でもないもの！』
～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～③
- 36 企画展『Oでも×でもないもの！』
～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～④
- 37 美術館 事業報告①
- 38 美術館 事業報告②
- 39 美術館 事業報告③
- 40 美術館 事業報告④
- 41 さいごに

[はじめに]

沖縄県立博物館・美術館は、「おきみゅー」という愛称で親しまれ、おかげさまで開館17年目を迎えました。美術館の教育普及事業におきまして、今年度は例年と同様、様々な展示や催事を行ってまいりましたが、開館初めての教育普及に関する展覧会を実施しました。題して『〇でも×でもないもの!』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～。嬉しいことに、6,000人を超える方々が入场されました。

当館が所蔵する美術作品等の解説をできる限り減らし、作品そのものを、さわる、きく、みる、むきあう、と五感を総動員して味わい、最後のつたえるという場で、来館者自身に表現してもらおうという試みでした。

1,300人を超える方々が具体的な作品として表現されました。このようにして、この場で生まれた作品を味わう方々に混じって、私たちも喜びを享受することができました。皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本展開催中、当館を訪れることのできなかつた方にも、あたかも来館して、一緒に味わったかのように感じられる記録集を発行しました。ご一読いただければ幸いです。

さて、美術館の主な事業内容には「資料収集」・「保存管理」・「調査研究」・「展示公開」・「教育普及」の5つの柱があります。教育普及事業は、美術館が文化・芸術の発信拠点として、交流や皆様とのつながりを大切にしながら、誰もが美術を通して新たな価値に出会える場を創出し、より多くの皆様が美術に親しみ、楽しんでいただくことを目的としております。

本報告書は、2024年度に実施した美術館の企画展、コレクション展、それらに伴う関連催事、学校支援プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアーなど、幅広い教育普及事業の活動内容をまとめたものです。

常に新しいプログラムに取り組むことにより、美術館と外部団体、個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えております。

本報告書が、これまで以上に沖縄県立博物館・美術館をご愛顧いただく契機となりますよう期待するとともに、教育普及事業に対するご理解への一助になれば幸いです。

2025年3月 沖縄県立博物館・美術館 館長 里井洋一

[本年度の取り組み]

本年度は、沖縄県立博物館・美術館として初めての「教育普及」展を開催しました。「令和6年度美術館企画展『OでもXでもないもの!』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～」は、当館の所蔵する魅力的な作品を中心に、『第1章「さわる」って?』、『第2章「きく」って?』、『第3章「みる」って?』、『第4章「むきあう」って?』という4つのテーマのもと、109点、61人もの作家の作品展示を行いました。そして、最後に『第5章「つたえる」って?』では、訪れてくださった皆さんが、思ったこと感じたことを「言葉」にしたり、作家や自分自身に宛てた「手紙」を書いたり、そして溢れる思いを「作品」として形にして残し、それぞれを美術館の白い壁に貼り出すという、「表現」すること、「伝える」ことを楽しんでいただく「場」をご提供しました。

さらに本展では、美術館でしかできない「体験」をしていただくために、会期中に10種類もの関連催事を開催しました。参加された方々には、作品を鑑賞することの面白さや、絵を描いたり、ものをつくり出し表現するという美術（アート）の楽しさを実感していただけたのではないかと思います。『OでもXでもないもの!』展は、令和6年11月1日（金）～令和7年1月13日（月）まで開催し、延べ6,097人もの皆さんに足を運んでいただきました。本展が、皆さんにとってアートを身近に感じ、人生に彩を添える一助となっていたら幸いです。

また、今年度のコレクション展は「沖縄の彫刻たち」「沖縄美術の流れ」を通年で開催し、「岸本一夫 オキナワデザイン」を後期で開催しました。「沖縄の彫刻たち」は、後期で一部の作品を展示替えることで、皆さんに多くの立体作品を楽しんでいただくことができました。「沖縄美術の流れ」は、水彩画や版画、日本画など繊細な作品の一部展示替えを行い、1年を通して沖縄ゆかりの作品に触れていただきました。

「岸本一夫 オキナワデザイン」では、岸本一夫氏と崎山律子氏をお招きしギャラリートークを行い、大変ご好評をいただきました。次年度は、戦後80年の節目の年で、大きな企画展を開催予定なので、関連催事の充実を図りたいと考えています。

さて、コロナ禍を経て、昨年度から学校団体が利用する「学校支援プログラム」への申し込みが増えてきました。今年度は、年間を通して累計14校の学校に「鑑賞支援プログラム」を活用していただき、人と人との交流が戻ってきたことを実感しています。また、ご来館いただいた学校団体からは、「美術や美術館について知ることができた」「会話をしながらの鑑賞は、とても楽しかった」「また美術館に来たい」などの感想やお手紙をいただき、職員一同大変励みになりました。特に『OでもXでもないもの!』展に付随した形で実施した、沖縄県立沖縄盲学校への出前授業と、展示室での鑑賞プログラム。那覇市立安岡中学校の1年生を対象に、美術館の仕事について「職業人講話」を学校で行い、その後、代表として3人の生徒が美術館で、儀保克幸氏とギャラリートークを実施したことは、児童生徒の皆さんだけでなく、大人の私達にとっても大変貴重な経験となりました。

毎年恒例の「夏休み子どもフェスタ」と、子どもから大人まで参加できる「OKINAWA アートワークショップ」は、全てのワークショップを予定どおり開催することができました。どのワークショップも大変好評で、参加していただいた皆さんの集中力と、楽しそうな笑顔は、私達、普及担当者の励みとなっています。

また、8回目の開催となった県内の児童・生徒を対象とした「アートコンクール」では、561点もの応募がありました。今年度は、『OでもXでもないもの!』展の開催に合わせ、テーマを「私と美術館」としました。テーマが難しかったのか、応募点数は昨年に比べ減ってしまいましたが、自分自身の目で見て感じ、思ったこと、考えたことを表現した作品には、美術（アート）が好きな児童・生徒の皆さんの「美術館」に対する思いが込められていたように思います。

以上のように、本年度も、多くの個人・団体と連携し、当館の教育普及事業を実施することができました。次年度も、様々なことを模索しながら、教育普及事業の充実を図っていきたいと思います。

沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及担当 主任学芸員 玉城早苗

学芸員講座+キュレータートーク①

当美術館では、学芸員が普段の仕事から知り得た成果を発表するために、学芸員講座を開催している。内容は、学芸員が企画した展覧会作品の見どころ紹介や、修復に関することなどさまざまだが、学芸員にとって専門家としての責任を再確認し、来館者が知りたいことや求めているものに目を向ける大切な機会である。

また、キュレータートークでは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の成果を発表している。観覧者が、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展覧会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後へ向けての情報収集となる。

回	期日	曜日	講座名	担当
1	9月7日	土	「沖縄の彫刻たち」学芸員講座+キュレータートーク	梶原正史
2	11月1日	金	『〇でも×でもないもの!』オープニングギャラリーツアー	玉城早苗
3	12月1日	土	『〇でも×でもないもの!』学芸員講座+キュレータートーク	玉城早苗
4	2月15日	土	「岸本一夫 オキナワデザイン」学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり



●梶原正史学芸員

学芸員講座＋キュレータートーク②



●玉城早苗学芸員



●大城さゆり学芸員



【学芸員の声】

当館では、学芸員の研究成果を県民の皆様へ還元する目的で、定期的に学芸員講座を開催している。コレクション展や企画展に関連した内容で、講座室で研究報告を行った後、展示室へ移動し作品解説（キュレータートーク）を行うスタイルを取ることが多い。保存修復担当からは、展示中の作品がどの様に修復処置されたかなどを報告し、各展覧会担当からは、展示に向けた調査・研究から明らかになった見地や証言および資料の紹介などが行われる。

本年は企画展『〇でも×でもないもの！』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～と、コレクション展「沖縄美術の流れ」、「沖縄の彫刻たち」、「岸本一夫 オキナワデザイン」が開催された。「沖縄の彫刻たち」の学芸員講座は、担当学芸員が保存修復担当ということもあり、立体物の修復について詳しく解説する講座となった。

また、『〇でも×でもないもの！』展では、始めに美術館講座室で展覧会の主旨や内容を説明し、当館オリジナルのアートカードを使用したゲームを行った後、企画ギャラリー1・2で参加者と対話を行いながら作品を鑑賞する「対話による鑑賞」という鑑賞方法で作品を楽しんだ。

(梶原正史)

アーティストトーク・ギャラリートーク①

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関する思いを直接伺ったり、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて解説いただくことで、新たな気付きやより深い理解に繋がっていくといえる。



●ギャラリートークの様子

『〇でも×でもないもの!』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～

関連催事：ギャラリートーク「アーティストと中学生が向き合うって?」～「ARTと私」正解のないARTについて語ろう!～【儀保克幸(アーティスト)×安岡中学校1年生(代表者3人)】

「アートってなんだろう?」「人はなぜ表現するのだろうか?」「正解のないアートの世界」,「アートと私」について、彫刻家の儀保克幸氏と、安岡中学校1年生の生徒代表3人(濱元さん・佐久本さん・池城さん)がギャラリートークを行った。

生徒の皆さんが、儀保さんに対して作品制作について質問をしたり、逆に儀保さんから、生徒の皆さんへ質問を投げかけるなど、1時間半があっという間のとても温かな良いギャラリートークであった。

日 時：2024年11月30日 14:00～15:30

場 所：美術館企画ギャラリー回廊

参加者：20人

アーティストトーク・ギャラリートーク②

令和6年度 コレクション展「岸本一夫 オキナワデザイン」ギャラリートーク

「あの頃の、あんな話こんな話」 岸本一夫×崎山律子×大城さゆり

2025年2月8日14時より、コレクション展出品作家の岸本一夫氏（グラフィックデザイナー）と、元アナウンサーの崎山律子氏（那覇市文化協会会長）による対談形式のトークイベントを開催した。岸本氏の幼少期から大学時代にかけての知られざるエピソードから、琉球放送在籍時代に手がけた手書きテロップの仕事、フリーランスになってからの仕事など、これまでの足跡を知る数々の話が飛び出した。また、AI登場後のデザイナーの仕事や若い人々に向けたメッセージなども言及し、沖縄の戦後グラフィックデザインを牽引した岸本氏のデザイン哲学を知るための重要な機会となった。

日時：令和7年2月8日 14:00～15:30

場所：美術館アトリウム

参加者：36人



●ギャラリートークの様子

美術館ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。各担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室で行う作品修復の解説は、参加者の多くの関心を集めている。

- ①内 容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する。
- ②実 施：年5回 土曜日 10:30～12:00
- ③定 員：12人



●大城さゆり学芸員(資料収集)



●亀海史明学芸員(展示公開)



●豊見山 愛学芸員(調査研究)

当館の「ミュージアムツアー」では、ふだん美術鑑賞を目的に訪れる方々に美術館の裏側をお見せし、どのような仕組みになっているかを伝えるよう取り組んでいる。美術作品が、美術館でどのように保管・管理され、そして表舞台（展示室）で公開されるかについて、座学と見学とで紹介をしていく。美術作品は環境の影響を受けやすいため、直に収蔵庫の中へご案内することは叶わない。しかし、画像やパワーポイントを駆使して、より詳しくお伝えできるよう心掛けている。

学芸員の重要な仕事の一つとして、展示する美術作品の情報を集め、それを精査し、解説パネルにまとめて掲示することがある。本や昔の新聞、雑誌などで調べることもあれば、アーティストに直接お話を伺うこともある。または、作者がお亡くなりになっていれば、ご家族や関係者へお話を伺うこともあり、その際には守秘義務にあたる部分を丁寧に取り除き、ご紹介できる文章のスタイルに整えてパネルにまとめる。そのような裏側の仕事も想像できるようなツアーを心がけている。

いずれにしても、美術作品の魅力が伝わるように、美術館の裏側をお見せできれば幸いである。

(豊見山 愛)

慰霊の日関連催事

沖縄戦の体験者も高齢となり、私たちの身近にも悲惨な地上戦について語ってくれる人が少なくなってきました。学校現場でも年々、沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では2017年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。戦争の愚かさや命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、あらためて平和について考える機会とすることを目的としている。

【日 時】 展示期間 令和6年6月1日（土）～6月30日（日）
読み聞かせ催事 令和6年6月1日（土）14：00～15：00

【会 場】 沖縄県立博物館・美術館 1階 エントランス

【講 師】 高良 實氏（美術館ボランティア）

【参加者】 29人

【内 容】 博物館・美術館教育普及連携催事で、館内1階エントランスにTVモニターを設置し、平和関連の絵本の読み聞かせ映像の上映と、沖縄県立図書館協力のもと本の紹介も行った。
また、6月1日（土）に、高良 實氏に実際に読み聞かせを行っていただいた。



令和6年度 沖縄県立博物館・美術館 慰霊の日関連催事 **無料**

「おきみゅーで平和について考えよう！」
えほん読み聞かせ

6月23日の慰霊の日を前に、おきみゅーでは絵本の読み聞かせを行います。
目が覚めるような短編、そして戦争の愚かさや命の大切さを伝える『マゾのアンマー』
2013年沖縄戦60周年を記念して出版された、児童書作家の詩を絵本にした『いってすてきなね』
もご紹介いたします。絵本を通して平和について考えるきっかけになれば幸いです。
皆さま、どうぞお気軽にご参加ください。

6.1

14:00～15:00
(受付 13:30)

会場 高良 實 さん（美術館ボランティア）
会場 1階エントランスホール
対象 小学生（無料）
申込 予約不要
申込先 098-941-4200
主催 沖縄県立博物館・美術館
協賛 沖縄県立図書館・美術館

作品 『マゾのアンマー おきなわの母』
赤坂薫久・文 北島新平・絵
『いってすてきなね』
安里有生・詩 長谷川真史・画

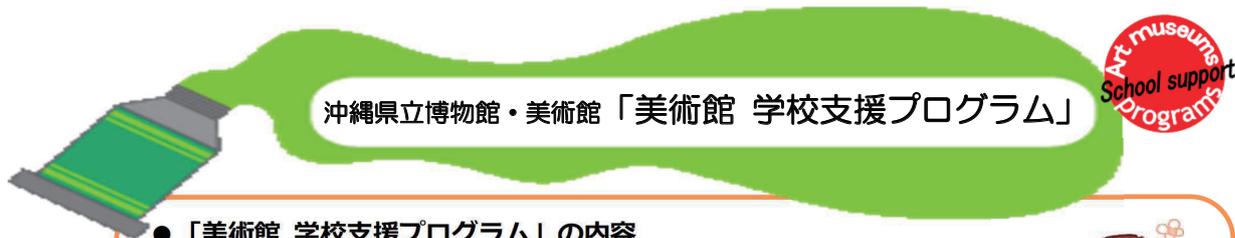
おきみゅー一冊でも読んで
戦争（まじの戦争）
について考えてみましょう！



● 展示・読み聞かせの様子



美術館・学校支援プログラム



●「美術館 学校支援プログラム」の内容

1. 鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：美術館にて
2. 美術館出前講座：学校にて
3. 教育普及キットの貸し出し：学校へ貸出し
4. 小・中・高職場体験や、研究・研修会の受け入れ：美術館にて
5. 心の教室・適応指導教室等と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供：美術館にて



1. 鑑賞支援プログラム

- 学校・学級等で申し込みいただいた団体に、鑑賞ボランティアによる「対話による鑑賞」を行う。
 - 社会科・総合学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料から沖縄を知る手がかりとして当館を活用する。
 - キャリア教育の側面から、美術館の役割や仕事の内容について教育普及担当学芸員が説明する。
- ※学校の要望等に応えながら、学校と美術館で授業を作り上げていく。



- 「鑑賞支援プログラム」の細かい流れについては、学校側との調整を行う。
- ※申込は、当館の web サイトより <http://okimu.jp>



※詳しいお問い合わせは
 沖縄県立博物館・美術館（美術館班）
 主任学芸員 教育普及担当 玉城早苗
 TEL:098-851-5402（美術館直通）
 FAX:098-941-3730
m8-016@museums.pref.okinawa.jp

2. 美術館出前講座（教育普及担当学芸員が学校へ行き授業を行う）

- 教育普及担当学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事、来館時の鑑賞マナー等について説明する。
- ティーチャーズキット（※1）、アートカード（※2）を使用し、鑑賞授業のレクチャーや授業の支援を行う。

3. 教育普及キットの貸し出し

- 実物大の複製画（レプリカ）、ティーチャーズキット（※1）、アートカード（※2）の貸し出し。

4. 小・中・高の職場体験や、先生方の研究・研修会の受け入れ

- 収蔵作品の鑑賞や当館の鑑賞支援プログラムの紹介、バックヤードの見学が体験できる。

5. 心の教室・適応指導教室等と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供

- 学校や各関係機関と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供を行う。



- ※1 ティーチャーズキット：作品を複製したパネル（解説 CD 含む）
- ※2 アートカード：美術館収蔵作品の中から厳選した 60 作品をプリントしたカード

鑑賞支援プログラム①

「作品をどうみたらよいかわからない」鑑賞の方法について、よく聞かれる言葉である。美術館では、その問いに答える様々なプログラムがあるが、当館では、鑑賞者が自分のペースで展示を見る鑑賞方法と、学芸員やボランティアがサポートする「対話による鑑賞」がある。1人で見ただけでは見えてこなかったことが、対話を行うことでより深い鑑賞体験につながっていく。児童・生徒の美術に関する知識・理解をサポートする目的で、学校と美術館が連携して行うのが当館の鑑賞支援プログラムである。

	月日(曜日)	学校名	学年	参加者数
1	10月11日(金)	八重瀬町立新城小学校	5年	63
2	11月15日(金)	那覇市立安岡中学校(出前授業)	1年	307
3	11月21日(木)	沖縄県立島尻特別支援学校	小学部6年	36
4	11月26日(火)	渡名喜村立渡名喜小学校	6年	16
5	11月29日(金)	沖縄県立沖縄盲学校(出前授業)	小中学部	5
6	12月6日(金)	沖縄県立沖縄盲学校	小中学部	9
7	12月12日(木)	沖縄県立首里高等学校	3年	26
8	12月20日(金)	沖縄県立那覇みらい支援学校	高等部	21
9	1月17日(金)	那覇市立松島小学校	3年	103
10	2月13日(木)	沖縄県立浦添工業高等学校	1年	77
11	2月18日(火)	沖縄県立石川高等学校	2年	8
12	2月20日(木)	沖縄県立大平特別支援学校	小学部5年	32
13	2月25日(火)	恩納村立仲泊小学校(出前授業)	4年	21
14	3月4日(火)	恩納村立仲泊小学校	4年	21



●美術館について講話(出前授業)



●講話と複製画を鑑賞する様子(出前授業)



鑑賞支援プログラム②



●美術館について講話



●アートカードで学ぼう



●ボランティアとの「対話による鑑賞」①



●ボランティアとの「対話による鑑賞」②



●企画展にて作品を触りながら鑑賞



●担当学芸員と共に企画展を鑑賞



●「岸本一夫 オキナワデザイン」自由鑑賞



●企画展にて作品制作

ボランティア活動

当館の美術館ボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートするガイドボランティアと、美術館関連書籍・新聞などを整理する資料整理ボランティア、ワークショップをサポートするワークショップボランティアの3つのグループに分かれ、それぞれの特技を活かし活動している。今年度、企画展の関連催事で一般向け鑑賞ツアーを行い、多くの方に当館のボランティア活動を知っていただくことができた。今後も様々な活動を通して、美術館の楽しみ方を発信していきたい。

ボランティア研修会

回数	実施日	プログラム	内容
第1回	4月24日	活動説明会と研修会	ボランティア証交付、職員紹介、今年度のスケジュール確認と昨年の振り返り（沖縄県立沖縄ろう学校）
第2回	6月26日	館外研修	那覇市立壺屋焼物博物館
第3回	7月24日	研修会	美術館コレクション展展示解説会
第4回	8月7日	研修会	対話による鑑賞実践と企画展内容説明
第5回	10月2日	研修会	対話による鑑賞実践
第6回	11月13日	研修会	対話による鑑賞実践
第7回	12月11日	展示解説	対話による鑑賞実践
第8回	1月29日	研修会	『〇でも×でもないもの!』関連催事「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」トークセッション鑑賞
第9回	2月12日	研修会	「岸本一夫 オキナワデザイン」展示解説
第10回	3月12日	研修会	R6年度振り返り

ガイドボランティア対応 鑑賞ツアー

回数	実施日	学校・一般	参加者数
第1回	10月11日	八重瀬町立新城小学校	63
第2回	11月16日	『〇でも×でもないもの!』関連催事「美術館で語り合うって？」 ボランティアとの対話による鑑賞①・②	7
第3回	12月14日		10
第2回	3月4日	恩納村立仲泊小学校	21



●養成講座の様子①



●養成講座の様子②



●団体対応の様子

美術館 職場体験

職場体験とは、生徒が一般企業などで働く人たちとコミュニケーションを取りながら、実際に仕事を体験する学習活動である。当館では、団体鑑賞プログラムの対応、資料整理など学芸員のサポート業務と、展覧会会場の交流員やもぎり、ミュージアムショップでの接客など、来館者の対応にも挑戦する。また、当館が取り組んでいる IPM（総合的有害生物管理）について、文化財 IPM コーディネーターの資格を有した職員が講義を行い、文化財保護の重要性を学ぶ機会を提供している。今年度は、1校の高校（3人）、2校の中学校（7人）の生徒を受け入れた。



●美術館について講話



●バックヤードの見学



●資料整理



●IPM 講座①



●IPM 講座②



●ふれあい体験室清掃作業



●ふれあい体験室



●ミュージアムショップ



●情報センター

学芸員実習①

美術館では、開館3年目の2009年から学芸員実習の受け入れを行っている。受け入れにあたっては、例年、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れ、定員は10名以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義を行っている。今年度は、沖縄県立芸術大学10人、武蔵野美術大学通信課程1人、合計11人の学生を受け入れ、予定通り2週間実施することができた。

●実施期間：令和6年8月19日（月）～8月30日（金）

【美術館学芸員実習カリキュラム】

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月19日	月	開講式、オリエンテーション、学校支援プログラム等	アートカード・対話による鑑賞の実践、その他
20日	火	資料収集の概要、展示の実際	資料調査実習（平面資料）、資料の分類情報処理
21日	水	IPM講習、保存管理の概要	修復の実際、修復の実習
22日	木	展示公開の概要、展示公開の実際	資料調査実習（写真＋二次資料）
23日	金	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
26日	月	美術館学芸員の調査・研究、調査研究の実際	解説パネル作成
27日	火	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
28日	水	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
29日	木	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
30日	金	共通課題研究の発表、閉講式	実習のまとめ→実習記録簿等の提出



●教育普及講座



●調査研究講座



●資料収集講座



●保存修復講座

学芸員実習②



● 展示公開講座



● 公共施設の役割等について



● 課題研究について



● 課題研究発表会の様子

《実習生レポートより》※一部抜粋

①実習を通して、大学内の博物館関連の授業を受けるだけでは得られない知識や経験がたくさん存在していることや、博物館施設の存在が作品や美術の分野、そして、お客様や地域にとって非常に重要な位置づけにあることを強く実感しました。実習中、難しいと感じたことは数多くありましたが、特に印象的だったのが展示交流員の方との実務体験です。個性的なお客様が多く、監視することの難しさを体験を交えてお話していただき、簡単な仕事ではないと仰っていました。それでも、十数年、そのボランティアを続けているというのは、美術が持つ人の心を動かす力の大きさによるものだろうと感じました。それは、学芸員の方々にも言えることで、展覧会を開くまでの膨大な業務や研究、保護の大変さが座学でもひしひしと伝わってきましたが、それでも作家や作品への愛の深さが垣間見えたり、講話をしている間の生き生きとした表情を見ると、やりがいのある魅力的な仕事であると感じました。

今回の博物館実習は、私にとって非常に貴重な経験となりました。学芸員の仕事の多様性と専門性、そして博物館が果たす社会的役割の重要性を深く理解することができました。また、美術館における資料の保存と公開の難しさ、そして、それらを通じて人々に感動と学びを提供することの意義を実感しました。この実習で得た知識と経験を今後の学びや仕事に活かしていきたいと思います。貴重な経験をありがとうございました。

②十日間の実習を通して印象的だったものとして、一番に思い浮かぶのは、館で働かされている職員（学芸員）の皆さんの活いきとした姿だ。学芸員一人ひとりに「現状はこうだ。それに対して私はこう思う」というような確立した意見があり、それぞれ軸を持って行動されている様子がうかがえ、「館が生きている」と感じさせられた。実習中、ワークバランスが話題にあがった際、「ワークもライフなのに」という言葉があがった。難しそうな話は、一旦置いておいて、ここで働かされている方は、皆さんワークもライフであるという言葉が体現されているように思われる。業務に大きな責任や慎重である必要が伴う分、大変な仕事だが、やりがいを感じてご自身の仕事に向かい合い、現在の沖縄県立博物館・美術館を成り立たせているのだと思う。様々な方面に配慮しながら自身の目指す仕事の在り方に向かっていく学芸員の方々には頭が上らない思いだ。

教職員講座・教職員研修、その他研修の受け入れ

教育委員会や研究所、学校等からの要請を受け、「校内研修」や「中堅教諭等資質向上研修」等の受け入れを行っている。今年度は、那覇市内の小・中学校6人の先生方を受け入れ「中堅教諭等資質向上研修」を実施した。また、那覇市立曙小学校、伊平屋村立伊平屋中学校の校内研修も実施することができた。

さらに、那覇教育事務所主催の県民カレッジ「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」も、昨年を引き続き実施し、多くの参加者で賑やかなツアーとなった。

昨年、台風の為中止となった沖縄県造形教育連盟と共催で開催している「教員向け講座」だが、今年度は無事に開催することができた。

1. 令和6年度 中堅教諭等資質向上研修「社会体験研修」

- (1) 実施日：令和6年7月23日（火）
- (2) 受入人数：那覇市内小・中学校教諭 6人

2. 那覇市立曙小学校「校内研修」

- (1) 実施日：令和6年7月30日（火）
- (2) 受入人数：30人

3. 沖縄県造形教育連盟教員向け講座（中学校部会）

- (1) 実施日：令和6年7月31日（水）
- (2) 受入人数：16人

4. 沖縄県造形教育連盟教員向け講座（小学校部会）

- (1) 実施日：令和6年8月2日（金）
- (2) 受入人数：30人

5. 伊平屋村立伊平屋中学校「校内研修」

- (1) 実施日：令和6年8月2日（金）
- (2) 受入人数：15人

6. 令和6年度 県民カレッジ

「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」

- (1) 実施日：令和6年8月9日（木）
- (2) 受入人数：24人

7. 令和6年度初任者研修（沖縄県立浦添高等学校）

- (1) 実施日：令和6年11月28日（木）
- (2) 受入人数：4人



●中堅教諭等資質向上研修の様子



●沖縄県造形教育連盟教員向け講座の様子



●校内研修の様子

夏休み！こどもフェスタ 2024 ②



●「ミニ漆喰シーサーづくりに挑戦！」



●「アートなダンボール作品作り」

夏休み！こどもフェスタ 2024 ③



● 「グルグルえのぐ×変身お面」



● 「ミクストメディアで表現しよう！」

OKINAWA アートワークショップ 2024 ①

沖縄県立博物館・美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。2017年度より、沖縄の地域素材を生かした、子どもも大人も楽しめるワークショップを実施している。今年度は、『さあ行こう美術館へ！はじめの一步を踏み出そう！～美術館で「作品を見る楽しさ・絵を描いたり、ものをつくる喜び」を感じてみよう！～』をテーマに、これまで通り沖縄の地域素材を生かした内容に加え、県内で活躍する作家をお招きし、ものづくりの楽しさを感じることで出来るワークショップを開催することができた。

日程	内容	講師名	参加者数
1 5月11日(土)	彫金とアートのピアス・イヤリング	qulias (望月尚美氏)	12
2 5月11日(土)	ワイヤーアートをつくってみよう	doodlecraft	12
3 5月12日(日)	そうなんだあ、と思える デッサンのお話と実技	よねだはるひこ氏 (美術画家)	8
4 5月12日(日)	手縫いでリメイク体験	RIFATTO (小林祐也氏)	8
5 6月8日(土)	ウージ染めの糸で木杵織り	豊見城市ウージ染め協同組合 (織り工房4人)	16
6 6月15日(土) 6月16日(日)	漆喰シーサーづくりに挑戦！	山城富嗣氏 (現代の名工) 大城幸祐氏 (現代の名工) 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん	15
7 12月21日(土)	ヒンメリ用ストローで作る 光と影を愉しむヒンメリ	サンサンポ (島尻 歩氏)	7
8 12月21日(土)	干支紅型でお正月支度	城紅型染工房 (山城祥子氏・吉濱 愛氏)	15
合計			93





● 「彫金とアートのピアス・イヤリング」



● 「ワイヤーアートをつくってみよう」



● 「そうなんだあ、と考えるデッサンのお話と実技」



2024 OKINAWA アートワークショップ

「さあ行こう美術館へ！はじめての1歩を踏み出そう！」
～観る楽しさ・描くおもしろさ・つくる喜びを感じよう～

美術館で作品を観たり、絵を描いたり、何かを作った経験はありますか？
おどろきで溢れるワークショップで、あなたの「芸術の1歩」を応援します！
※1歩踏み出した後の楽しみや、その後の学びについてもご説明いたします。

5/11 (土)

「彫金とアートのピアス・イヤリング」
真鍮や銅を使って小さなキャンパスの出来上がり、そこに好きな色を塗り重ねて世界に一つだけのピアス(イヤリング)を作ってみよう。

【講師】 船山 結衣 (オオニさん)
【時間】 10:00～12:00
【対象】 小5～一般
【定員】 12名
【参加費】 3,800円
【申込】 4/11 (木) から

「ワイヤーアートをつくってみよう」
輪を巻くようにワイヤーで動物を作ろう！
1本のワイヤーから素敵なアートにチャレンジ！
どんな動物作りたいの考えてみて。

【講師】 doolectcraft
【時間】 14:00～17:00
【対象】 小5～一般
【定員】 10名
【参加費】 1,500円 (工具込み)
【申込】 4/11 (木) から

※ワイヤーアートはワイヤーを切断する作業があります。ワイヤーアートにはワイヤーを切断する作業があります。ワイヤーアートにはワイヤーを切断する作業があります。

5/12 (日)

「そうなんだあ、と考えるデッサンのお話と実技」
美術館のよねはるのこころを鑑賞し、鑑賞したよねはるのこころを模写し、自分なりの見方・感じ方を表現しよう。実技は鑑賞しながら、いろいろな角度から「鑑賞」を体験してみよう。

【講師】 よねはるのこころ (美術館)
【時間】 9:30～12:30
【対象】 高校生～一般
【定員】 18名
【参加費】 1,500円 (スタッフブック、絵具込み)
【申込】 4/12 (金) から

※デッサンの準備などの詳細は、決まり次第お知らせいたします。

「手縫いでリメイク体験」
大人気なファッションアイテム、Tシャツやサングラスのフレームに、オリジナルのデザインを施してみよう。リメイクの楽しさを体験しよう！

【講師】 1777
【時間】 14:00～17:00
【対象】 小5～一般
【定員】 8名
【参加費】 1,000円
【申込】 4/12 (金) から

※リメイクしたいTシャツやTシャツを1着お持ちください。

会場：市民アトリエ、こどもアトリエ
受付：ワークショップ実施日の1ヶ月前から、電話・来館 (随時受付) に受付

お問合せ：tel 098-941-8200
平900-0006
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

多岐の年齢・国籍・障害の有無に関わらず、誰もが参加できるワークショップを開催しています。
【特別価格】 半額・半額 (後・主は定額あり)
【休館日】 月曜・日曜 (後・主は定額あり)
【お問い合わせ】 詳しくはこちら



OKINAWA アートワークショップ 2024 ③



● 「手縫いでリメイク体験」



● 「ウーヅ染めの糸で木枠織り」



● 「漆喰シーサーづくりに挑戦！」



2024 OKINAWA アートワークショップ

「さあ行こう美新都へ! はじめの1歩を踏み出そう!」
 ～一歩を踏み出して、書く・作る・感じる喜びをしよう～

美新都で高年層の1歩を踏み出し、何かを作った経験はありませんか? 美新都では毎年アートワークショップで美新都の「はじめの1歩」を応援します! 皆さんの生活にアートの力で寄り添いたいのでありますように。

6/8 (土) **ウーヅ染めの糸で木枠織り**

ウーヅ染めの糸を使った作品を作る際に「糸1本1本」が大切! カラフルで華やかな糸を使って、素敵な織物を作ります! 美新都の伝統文化の体験や、地域で、美新都の発展に貢献することができます。

【講師】 鹿野市ウーヅ染め協同組合 (講師3名)

【時間】 9:30～12:30

【対象】 小3～一般

【定員】 16名

【参加費】 1,500円

【申込】 5/8(水)から電話・来館(限らぬ限り)にて受付 ※先着順

6/15-16 (土・日) **「漆喰シーサーづくりに挑戦!」**

漆喰を使ったシーサーの作り方を体験し、自分だけのシーサーを作ります! 美新都の伝統文化の体験や、地域で、美新都の発展に貢献することができます。

【講師】 山城富道さん (現代美術工芸家) 大城幸祐さん (現代美術工芸家) 沖縄県地球科学 漆喰職人協会の皆さん

【時間】 10:00～15:00

【対象】 小5～一般

【定員】 15名 (必ず事前参加申し込み)

【参加費】 2,800円

【受付】 5/15(水)～5/19(日)

※ 参加費に材料費は含まれません。
 ※ 参加費に材料費は含まれません。
 ※ 参加費に材料費は含まれません。
 ※ 参加費に材料費は含まれません。
 ※ 参加費に材料費は含まれません。

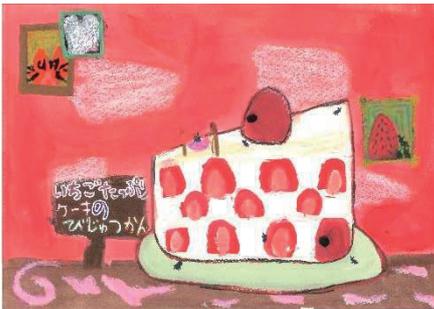
会 場：美都アートビル、こどもアリエ
 お問い合わせ：tel 098-941-8200
 〒900-0066 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

美都アートビル 美都アートビル
 美都アートビル 美都アートビル
 美都アートビル 美都アートビル

アートコンクール

2017年より、県内の児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指している。今年度は、テーマを「私と美術館」として募集したところ、561点の素晴らしい作品が集まった。作品の中から特に色彩豊かで独創的な作品が入賞し、11月3日に表彰式を挙行了。当日は、入賞者のご家族にもご列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

【最優秀作品】



■ 小学校 1・2・3 年生の部 仲間由奈
(宜野湾市立宜野湾小学校 3 年生)



■ 小学校 4・5・6 年生の部 永吉希子
(宜野湾市立志真志小学校 6 年生)



■ 中学校の部 伊豆味真由
(沖縄市立美里中学校 2 年生)



■ 高校の部 大城和月
(沖縄県立真和志高等学校 3 年生)



■ 特別支援の部 下地陽大
(沖縄県立那覇みらい支援学校高等部 1 年生)



● 表彰式の様子



↑ 入賞者、コンクール
詳細はこちら

アートコンクール (審査講評)

(応募総数 561 点)

今年のテーマは「私と美術館」。テーマが難しかったのでしょうか？昨年と比べ、応募点数は減ってしまいましたが、作者の皆さんの「こんな美術館があったらな」という想像力が発揮された作品や、「アートや美術館が好き」という思いが込められた作品、「これからの美術館へ望むこと」等が描かれた印象深い作品等、とても内容の濃い素晴らしい力作が届きました。

画材や表現方法も様々で、鉛筆やペン、クレヨンや色鉛筆、絵の具、紙や糸、石等を貼り付けたコラージュ等で表現したり、デジタル画もみられ、それぞれの画材や技法の特性を生かしながら、画面いっぱいに「私と美術館」が表現されていました。今年は、見ていてとても楽しくなる作品もあれば、思春期の言葉にできない思いを表現しているような作品も多く、審査員の先生方を「う～ん、これは深いね～！」と唸らせる作品が、たくさんあったように感じました。

今年もアートコンクールが開催できたことは、応募していただいた児童・生徒の皆さんはもちろんのこと、ご家族の皆さん、学校の先生方、並びに各団体の関係者の皆さんのお力添えのおかげだと心より感謝申し上げます。当館は、「アートと出会い、人と出会い、自分自身と出会う場」として、今後も児童・生徒の皆さんのお越しをお待ちしています。これからも、美術館へどんどん足を運んでください！

美術館教育普及担当：玉城早苗

【小学校の部】 (応募数 102 点)

那覇市立上間小学校 教頭 仲間亜矢 先生

テーマは『私と美術館』。自分で想像した美術館、美術館での思い出、また作品を鑑賞した時に感じたことなどについて、子ども達一人一人が自由に表現していました。絵の具やパス、色鉛筆、カラーペン等を使い、思いを伝えるために色づかいも工夫され、どれもステキな作品ばかりでした。「美術館がすき」「絵を描くことがすき」という思いをこれからも大切にしてほしいです。

【中学校の部】 (応募数 238 点)

那覇市立安岡中学校 美術科 教諭 花城 勉 先生

美術が言葉にできないことを視覚的に表現することとするならば、本来、言葉を用いなくても、すべての人々に何か伝わるはずである。だが今回、コメントやタイトルと作品を照らし合わせ重要な選定基準の一つとしました。作者が何を考え、思い、発想しているのかがわかる。言葉と作品がつながる瞬間でもあり、より深く感じることもできるからです。「私と美術館」というテーマに対し、たくさんの自由で瑞々しい感性や新しく鋭い視点に出会うことができました。素晴らしい作品でした。

【高校の部】 (応募数 120 点)

沖縄県立首里高等学校 美術科 教諭 仲里安広 先生

高校の部では、120 点の応募があり、バラエティーに富んだ秀作が多数ありました。特に最優秀賞に輝いた作品は、いくつかの名画を構成しながら、丁寧に独自の世界観を作り上げた魅力的なものでした。今回は、「私と美術館」というテーマで、作者の美術館への思いや作品との出会いについて様々な視点や発想で描かれ、個々の感性の豊かさや美術館の可能性を感じさせる素晴らしい作品群でした。次回も独創性あふれる力作を期待しています。

【特別支援の部】 (応募数 101 点)

沖縄県立島尻特別支援学校 中学部 美術科 教諭 崎原奈津季 先生

家族と過ごした美術館の思い出、想像の中の幻想的な美術館、自分の描いた作品を飾りたいという思いを込めて練習を重ねたモチーフの絵。「私と美術館」というテーマがとても素直に表現されており、見ていると自然と元気が湧いてきます。気持ちの向くまま手の動くまま、どの作品からもエネルギーが溢れ、画面を飛び越えて自分だけの特別な世界が広がっているようです。これからも新しい発見を探しに、わくわくした気持ちで美術館へ足を運んでほしいと思います。

移動展 in 多良間村

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、当館に足を運ぶことが難しい離島や遠隔地の方々にも、県民の財産である博物館・美術館の資料や作品を楽しんで頂ける場となっている。沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図ると共に、美術作品を鑑賞したり、ワークショップで作品を制作したり等、美術に親しむ場を提供することも目的としている。昨年は、初の沖縄本島北部、国頭村での開催となり、今年度は2年ぶりに海を渡り、多良間村の皆さんに喜んでいただくことができた。

- 【体制】 主催：沖縄県立博物館・美術館、一般財団法人 沖縄美ら島財団、多良間村教育委員会
- 【実施地域】 多良間村
- 【会期/時間】 令和7年1月24日（金）～1月26日（日）9：00～17：00
- 【会場】 多良間村コミュニティ施設 ふれあいフクギ館1階
- 【展示内容】 ①複製画「八重山風景（大嶺政寛）」、「NOW・・・（川平恵造）」の展示
②「展示会展示パネル」展示会概要パネル等の展示
- 【来場者数】 403人



●開会式の様子



●展示会場の様子

令和5年度コレクション展後期
 「大城皓也修復報告展」「大和コレクション展 vol.9 アートの愉しみ」「沖縄美術の流れ」
 会期：令和6年1月23日（火）～6月30日（日）

「大城皓也修復報告展」

本展覧会は、沖縄の画家、大城皓也作品の展示会である。本展出品作品は、生前大城のアトリエに保管されていた作品群の一部である。没後、アトリエの保存環境が徐々に悪化し、その作品群においては劣化が進む状態となった。その後当館に移動され、保管されている。当館収蔵の大城作品は100点を超えるが、そのほとんどが修復を必要としている。大城作品の展示とともに、美術館における修復作業の一端も展示し、修復をすることでどのような知見が得られたのか紹介した。

「大和コレクション展 vol.9 アートの愉しみ」

「大和コレクション」は、日本有数の現代美術コレクターである佐藤辰美氏により集められた作品群で、平成22年度に当館に寄託された。その内容は、世界的に評価の高い作家や、国内外の若手作家による平面、立体、写真、陶芸、インスタレーションなど多岐にわたる。

難しいと思われがちな現代美術だが、作者の投げかけた問いに耳を傾けると、新たな発見や思考が生まれてくるかもしれない。本展は、「大和コレクション」の中から、「アートの愉しみ」と題し、立体、絵画、写真を中心に紹介した。

「沖縄美術の流れ」

沖縄には、その歴史や風土から育まれた独特な文化があり、沖縄の美術も時代や置かれた立場や状況に多大な影響を受けながら培われてきた。本展では、戦前、戦後復興、本土復帰後、沖縄系移民、そして現代美術に章を分け、沖縄の近現代の美術作品をその変遷とともに時系列に辿る。美術家達が、それぞれの時代をどのように捉え表現したか、県内外、海外で活躍する沖縄出身、または沖縄にゆかりのある美術家の作品を1年を通して紹介した。



コレクション展「岸本一夫 オキナワデザイン」

令和7年1月25日（土）～10月19日（日）

オリオンビールや琉球放送（RBC）のロゴ制作などで知られる岸本一夫（1935—）。本展では、その原点となった油彩画をはじめとする新収蔵作品を展示。併せて、ロゴや商品、広告などのデザイン制作過程が見えるドローイングも一挙公開！誰もが一度は目にしたことがある岸本デザインの魅力をご紹介します。

■ギャラリートーク

「あの頃の、あんな話こんな話」

【日 時】令和7年2月8日（土）14：00～15：30

【会 場】アトリウム

【講 師】岸本一夫氏（グラフィックデザイナー）
崎山律子氏（那覇市文化協会会長）

【進 行】大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【参加者】36人

【内 容】岸本氏がテレビ美術に携わっていた時代、主に琉球放送株式会社（RBC）に勤務していた頃の話を中心に崎山律子さんとトークを行った。

■学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】令和7年2月15日（土）14：00～15：30

【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー1

【講 師】大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【参加者】9人

【内 容】担当学芸員が、展覧会のために行った調査・研究をもとに、岸本一夫氏の仕事を紹介するとともに、展示解説を行った。



コレクション展「沖繩の彫刻たち」

前期：令和6年7月13日（土）～令和7年1月19日（日）

後期：令和7年1月25日（土）～10月19日（日）

沖縄の近代彫刻は戦後、立体素材の入手がままならなかった当時、石膏で制作され、人物像が主流であった。彫刻表現も東京藝術大学で学んだ玉那覇正吉の影響が大いにあった。1951年、第3回沖展で彫刻部門が開設され、後に彫刻研究会「槐会（えんじゅかい）」の発足により沖縄の彫刻界が活気づいてきた。大きな転換期をもたらしたのが1986年の沖縄県立芸術大学の開学である。県外から多くの指導者が訪れることにより作風がグローバル化され、人物像から抽象的な造形へと多岐にわたり、様々な立体作品が制作されるようになった。また、県外や海外を拠点に活動する沖縄県出身の作家や、海外で生まれ育ち沖縄に帰還して制作する作家が紹介されるなど、多種多様な作品を目にする機会が増えた。コレクションギャラリー2では、当館が収蔵する立体作品の中から「沖繩の彫刻たち」と題して、戦後沖縄の近代彫刻に焦点をあてて紹介する。

■「沖繩の彫刻たち」関連催事

学芸員講座＋キュレータートーク

「美術品の保存修復について～保存修復の現場から～」

【日 時】令和6年9月7日（土）10：30～12：00

【会 場】美術館講座室・美術館コレクションギャラリー2

【講 師】梶原正史（展覧会担当学芸員）

【参加者】14人

【内 容】美術館講座室で展示されている彫刻や、修復について講話を行った後、展示室にて解説を行った。彫刻作品や、修復に対する興味・関心が高まる内容となった。



●学芸員講座の様子



令和6年度 コレクション展「沖繩の彫刻たち」関連催事
美術学芸員講座＋キュレータートーク

美術品の保存修復について～保存修復の現場から～

2024
9.7 ±

10:30～12:00
(開場 10:00 美術修復室)

講師 梶原正史 (美術修復室学芸員)

会場 美術修復室
コレクションギャラリー2

参加費 当日先着 (定員30名)

申込 988-941-8200
※当日の開催状況はコンタクトセンターでご確認ください。

詳細はこちら →

※先着順で定員に達した場合は、抽選となります。

【開催時間】9:30-19:00 (最終入場時間18:00)
【休 日】休館日 (休館日の場合は別途告知)

企画展

『〇でも×でもないもの!』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～
 会期：令和6年11月1日（金）～令和7年1月13日（月）

本展は、作品の色や形、作品を見たときの第一印象、または自らの五感を働かせ、作品に触れたり、音を聞いたり、音を想像してみたり、作品をじっくりと観察したりなど、見たまま、感じたまま、自らの感性で鑑賞し、誰もが作品鑑賞を楽しめる機会となることを目指し開催した。

また、訪れた方々に対話を楽しんでいただけるようにしたほか、入口にサポートシートを用意し、その中で幾つかの問いを投げかけた。

それは、誰かと語り合うことで、または、自分自身に問いかけることで、今まで気づかなかったことに気づいたり、色々なことを思いついたり、それぞれの考えに広がりや生まれ、もっと気軽に美術作品を楽しむことができるのではないかと考えたからだ。

さらに第5章では、鑑賞し終えた後の思いを「言葉」として文字に残したり、推しの作家や自分自身へ「手紙」を書いたり、また、言葉にできない感情や思いを「作品」として制作していただき、あふれる思いを「表現」し、「つたえる」ことを楽しんでいただいた。

そして、「対話による鑑賞」を中心に、10種類もの関連催事を開催し、来館者の皆様に、美術（アート）の楽しさを体験していただいた。

（玉城早苗）

【関連催事】

1. 『オープニングギャラリーツアー』

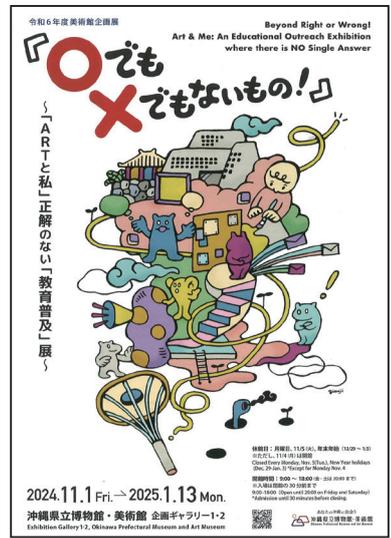
【日 時】令和6年11月1日（金）10:00～11:00

【会 場】美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】玉城早苗（展覧会担当学芸員）

【参加者】12人

【内 容】担当学芸員が、作品と展覧会について解説を行った。



●ギャラリーツアーの様子

2. 『土で絵の具をつくるって???』
 ～おきなわの土で絵を描いてみよう!～

【日 時】令和6年11月10日(日) 9:30～12:30
 【会 場】県民アトリエ・こどもアトリエ
 【講 師】ウエチヒロ氏(画家) ※本展出品作家
 【参加者】7人
 【内 容】ウエチヒロさんと一緒に、土を使った絵画作品の制作を行った。



●鑑賞ツアーの様子



●ワークショップの様子

3. 『美術館で語り合うって?』
 ～ボランティアとの対話による鑑賞①②～

【日 時】①令和6年11月16日(土) 14:00～15:00
 ②令和6年12月14日(土) 14:00～15:00
 【会 場】美術館企画ギャラリー1・2
 【講 師】当美術館鑑賞ボランティアスタッフ
 【参加者】①7人 ②10人
 【内 容】鑑賞ボランティアの皆さんと、「対話による鑑賞」を楽しみながら、美術館企画ギャラリーを巡った。

4. 『アーティストと中学生が向き合うって?』
 ～「ARTと私」正解のないARTについて語ろう!～

【日 時】令和6年11月30日(土) 14:00～15:30
 【会 場】美術館企画ギャラリー回廊
 【講 師】儀保克幸氏(彫刻家) ※本展出品作家
 安岡中学校1年生(代表者3人)
 【進 行】玉城早苗(展覧会担当学芸員)
 【参加者】20人
 【内 容】安岡中学校の1年生(3人)と、彫刻家の儀保克幸氏がギャラリートークを行った。



●ギャラリートークの様子

5. 『お話ししながら鑑賞するって?』キュレータートーク

【日 時】令和6年12月1日(土) 14:00~15:30

【会 場】美術館講座室、美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】玉城早苗(展覧会担当学芸員)

【参加者】10人

【内 容】おきみゅーオリジナルのアートカードを使いお話し
 した後、担当学芸員が企画展を案内した。



●キュレータートークの様子



●ギャラリーツアーの様子①

6. 『美術館バックヤード・企画展ギャラリーツアー』

【日 時】令和6年12月7日(土) 10:30~12:00

【会 場】バックヤード、美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】玉城早苗(展覧会担当学芸員)

【参加者】10人

【内 容】普段は見れない、当美術館のバックヤードと、
 企画展を、担当学芸員が案内した。

7. 『赤ちゃん和妈妈・パパのためのギャラリーツアー』

【日 時】令和6年12月14日(土) 10:00~11:00

【会 場】美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】玉城早苗(展覧会担当学芸員)

【参加者】2組(7人)

【内 容】小さなお子さんご家族のための鑑賞ツアーを
 行った。



●ギャラリーツアーの様子②

8. 映画『目の見えない白鳥さん、アートを見に行く』上映

【日 時】令和6年12月15日(日) 上映14:00～15:50

トークセッション16:00～17:00

【会 場】講堂(音声ガイド上映・トークセッション)

美術館講座室(日本語字幕上映)

【講 師】(トークセッション登壇者)

宮島真一氏(シアタードーナツ・オキナワ代表)

下地幸夫氏(しゃことんすはりきゆういん・鍼灸師)

嘉数勝哉氏(沖縄県立沖縄盲学校・教諭)

玉城早苗(展覧会担当学芸員)

【参加者】映画:103人、トークセッション:62人

【内 容】映画上映の後、トークセッションを行い、白鳥さんのアート鑑賞や活動の方法、生き方、さらには当館の未来について話し合った。



●トークセッションの様子



●ワークショップの様子

9. 『ミクストメディアで作品制作！』

～ミクストメディアって、いったい何？～

【日 時】令和6年12月22日(日) 14:00～17:00

【会 場】県民アトリエ・こどもアトリエ

【講 師】山川さやか氏(アーティスト) ※本展出品作家

【参加者】10人

【内 容】山川さやかさんと共に、様々な素材や道具を使って作品づくりにチャレンジした。



●ワークショップの様子

10. 『マーブル模様の絵の具あそび』

～絵の具を使った造形活動の展開～

【日 時】令和7年1月11日(土) 9:30～12:30

【会 場】県民アトリエ・こどもアトリエ

【講 師】大中原千陽氏(小田原短期大学 助教)

本村佳奈子氏(沖縄県立芸術大学 助教)

【参加者】7人

【内 容】保育士、幼稚園の先生、幼児教育に携わる方々が、こどもの気持ちになって作品を制作した。

令和6年度美術館事業報告

教育普及事業

※敬称略

①OKINAWAアートワークショップ.....93人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	5月11日	土	彫金とアートのピアス・イヤリング	qulias(望月尚美)	12
2			ワイヤーアートをつくってみよう	Doodlecraft	12
3	5月12日	日	そうなんだあ、と思えるデッサンのお話と実技	よねだはるひこ(美術画家)	8
4			手縫いでリメイク体験	RIFATTO(小林祐也)	8
5	6月8日	土	ウージ染めの糸で木枠織り	豊見城市ウージ染め協同組合(織り工房4人)	16
6	6月15日 6月16日	土 日	漆喰シーサーづくりに挑戦!	山城富函(現代の名工) 大城幸祐(現代の名工) 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん	15
7	12月21日	土	ヒンメリ用ストローで作る光と影を愉しむヒンメリ	サンサンポ(島尻 歩)	7
8			干支紅型でお正月支度	城紅型染工房(山城祥子、吉濱 愛)	15

②夏休み子どもフェスタ2024.....55人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	7月27日	土	ミニ漆喰シーサーづくりに挑戦!	田端 忠、堀切元気、沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん	19
2			アートなダンボール作品作り	儀間朝龍(ダンボールアーティスト)	14
3	7月28日	日	グルグルえのぐ×変身お面	大中原千陽、本村佳奈子(Confetti Project)	10組(12)
4			ミクストメディアで表現しよう!	山川さやか(アーティスト)	10

③慰霊の日関連催事.....29人参加

	月日	曜日	演題	講師名	参加者数(人)
1	6月1日	土	「おきみゅーで平和について考えよう!」美術館えほん読み聞かせ	高良 實(美術館ボランティア)	29

④ミュージアムツアー.....39人参加

	月日	曜日	担当	参加者数(人)
1	6月1日	土	亀海史明(展示公開)	6
2	8月24日	土	梶原正史(保存修復)	13
3	10月26日	土	大城さゆり(資料収集)	10
4	2月8日	土	豊見山 愛(調査研究)	10

⑤学芸員講座.....23人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	9月7日	土	美術館学芸員講座+沖縄の彫刻たちキュレータートーク 美術品の保存修復について～保存修復の現場から～	梶原正史	14
2	2月15日	土	「岸本一夫 オキナワデザイン」関連催事.2 学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり	9

⑥ギャラリートーク・アーティストトーク.....36人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	2月8日	土	「岸本一夫 オキナワデザイン」関連催事.1 ギャラリートーク「あの頃の、あんな話こんな話」	岸本一夫 崎山律子	36
2	3月24日	月	「岸本一夫 オキナワデザイン」関連 インタビュー撮影	岸本一夫	-

⑦第8回アートコンクール テーマ「私と美術館」.....応募総数 561 作品

- ・内 訳 小学校低学年の部 48 点、小学校高学年の部 54 点、中学校の部 238 点、
高等学校の部 120 点、特別支援の部 101 点
- ・審査員 仲間亜矢（那覇市立上間小学校 教頭）、花城 勉（那覇市立安岡中学校 教諭）
仲里安広（沖縄県立首里高等学校 教諭）、崎原奈津季（沖縄県立島尻特別支援学校 中学部教諭）
- ・作品展 10月29日（火）～11月17日（日）（1階エントランス）

⑧『〇でも×でもないもの！』～「ART と私」正解のない「教育普及」展～関連催事

a) キュレータートーク.....22人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	11月1日	金	オープニングギャラリートツアー	玉城早苗	12
2	12月1日	日	「お話ししながら鑑賞するって？」 キュレータートーク	玉城早苗	10

b) 美術館ボランティアによる対話による.....17人参加

回	月日	曜日	内容	担当	参加者数(人)
1	11月16日	土	「美術館で語り合うって？」 ボランティアとの対話による鑑賞①	鑑賞ボランティア 5人	7
2	12月14日	土	「美術館で語り合うって？」 ボランティアとの対話による鑑賞②	鑑賞ボランティア 6人	10

c) ワークショップ.....31人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	11月10日	日	「土で絵の具をつくるって??？」 おきなわの土で絵を描いてみよう！	ウエチヒロ	7
2	12月14日	土	赤ちゃんとママ・パパのためのギャラリートツアー	玉城早苗	2組(7)
3	12月22日	日	「ミクストメディアで作品制作！」 ～ミクストメディアって、いったい何？～	山川さやか	10
4	1月11日	土	「マーブル模様の絵の具あそび」 ～絵の具を使った造形活動の展開～	大中原千陽 本村佳奈子	7

d) ギャラリートーク.....20人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	11月30日	土	「アーティストと中学生が向き合うって？」 「ARTと私」正解のないARTについて語ろう！	儀保克幸 安岡中学校代表者	20

e) ミュージアムツアー.....10人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者数(人)
1	12月7日	土	「美術館バックヤード・企画展ギャラリーツアー」	玉城早苗	10

f) 講演会・上映会.....103人参加

	月日	曜日	演題	登壇者	参加者数(人)
1	12月15日	日	「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」 映画上映+トークセッション	宮島真一、下地幸夫 嘉数勝哉、玉城早苗	103

⑨美術館ボランティア研修会.....94人参加

回	月日	曜日	内容	担当(講師名)	参加者数(人)
1	4月24日	水	ボランティア証交付、職員紹介、今年度のスケジュール 確認と昨年の振り返り(沖縄県立沖縄ろう学校)	玉城早苗	13
2	6月26日	水	館外研修(那覇市立壺屋焼物博物館)	又吉幸嗣 (那覇市立壺屋焼物 博物館 主任学芸員)	12
3	7月24日	水	美術館コレクション展展示解説	玉城早苗、亀海史明 梶原正史	8
4	8月7日	水	対話による鑑賞実践と企画展内容説明	玉城早苗	10
5	10月2日	水	対話による鑑賞実践	玉城早苗	8
6	11月13日	水	対話による鑑賞実践	玉城早苗	8
7	12月11日	水	対話による鑑賞実践	玉城早苗	9
8	1月29日	水	『〇でも×でもないもの!』関連催事「目の見えない白 鳥さん、アートを見にいく」トークセッション鑑賞	玉城早苗	8
9	2月12日	水	「岸本一夫 オキナワデザイン」展示解説	大城さゆり	10
10	3月12日	水	R6年度振り返り	玉城早苗	8

⑩団体見学対応.....745人参加

	月日	曜日	学校名	学年	参加者数(人)
1	10月11日	金	八重瀬町立新城小学校(ボランティア対応)	5年	63
2	11月15日	金	那覇市立安岡中学校(出前授業)	1年	307
3	11月21日	木	沖縄県立島尻特別支援学校	小学部6年	36
4	11月26日	火	渡名喜村立渡名喜小学校	6年	16
5	11月29日	金	沖縄県立沖縄盲学校(出前授業)	小中学部	5
6	12月6日	金	沖縄県立沖縄盲学校	小中学部	9
7	12月12日	木	沖縄県立首里高等学校	3年	26
8	12月20日	金	沖縄県立那覇みらい支援学校	高等部	21
9	1月17日	金	那覇市立松島小学校	3年	103

10	2月13日	木	沖縄県立浦添工業高等学校	1年	77
11	2月18日	火	沖縄県立石川高等学校	2年	8
12	2月20日	木	沖縄県立大平特別支援学校	小学部5年	32
13	2月25日	火	恩納村立仲泊小学校（出前授業）	4年	20
14	3月4日	火	恩納村立仲泊小学校（ボランティア対応）	4年	21

⑩教職員講座、教職員研修、その他研修の受け入れ.....125人参加

	月日	曜日	内容	担当	参加者数(人)
1	7月23日	火	令和6年度 中堅教諭等資質向上研修「社会体験研修」	玉城早苗	6
2	7月30日	火	那覇市立曙小学校「校内研修」	前田比呂也	30
3	7月31日 (中学部)	水	美術館を活用した授業づくり/ニシムイについて 解説/アートカードを使って学ぼう/美術館の役割 や仕事の内容/館内でのマナー等について/「対話 による鑑賞」の実践	玉城早苗 保久村智恵	16
4	8月2日 (小学部)	金		玉城早苗 保久村智恵	30
5	8月2日	金	伊平屋村立伊平屋中学校「校内研修」	前田比呂也	15
6	8月9日	木	令和6年度県民カレッジ 「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」	玉城早苗	24
7	11月28日	木	令和6年度初任者研修（沖縄県立浦添高等学校）	玉城早苗	4

⑪学芸員実習.....11人対応

・参加校 沖縄県立芸術大学、武蔵野美術大学通信課程

月日	曜日	実習内容(午前)	実習内容(午後)
8月19日	月	開講式、オリエンテーション、 学校支援プログラム等	アートカード・対話による鑑賞の実践、 その他
8月20日	火	資料収集の概要、展示の実際	資料調査実習(平面資料)、資料の分類情報処理
8月21日	水	IPM 講習、保存管理の概要	修復の実際、修復の実習
8月22日	木	展示公開の概要、展示公開の実際	資料調査実習(写真+二次資料)
8月23日	金	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月26日	月	美術館学芸員の調査・研究、調査研究の実際	解説パネル作成
8月27日	火	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月28日	水	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月29日	木	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月30日	金	共通課題研究の発表、閉講式	実習のまとめ→実習記録簿等の提出

[さいごに]

コロナ禍を経て、当美術館も「社会教育施設」としての在り方や、教育普及事業の内容を改めて見つめ直す時期が来ているのではないかと感じています。これまでの「知識や情報」を教え育てるという「教育普及活動」から、自発的で主体的な「学び・ラーニング」へとシフトチェンジしていくことを模索する時期が来ているように感じていました。

そのような中、今年度の企画展『〇でも×でもないもの！』～「ARTと私」正解のない「教育普及」展～を開催できたことは、当美術館にとって大きな成果となったのではないかと思います。

今後も、当美術館では「アートとは何か?」「美術館とは何か?」など、正解のない答えを探し続けると共に、作品の見方や感じ方を楽しみ、訪れてくださる皆様にとって当館が、美術の楽しさや素晴らしさに「出会う場」となり、人と語り、自分自身をみつめ、新たな自分を「発見する場」となることを目指していきたくと思います。

10年後、50年後、そして100年後の未来に「沖縄の文化・芸術」を繋げていくこと、更には、一人でも多くの方が美術（アート）を身近に感じ、美術（アート）に親しんでいただけるよう、今後も、より多くの皆様に足を運んでいただけますよう、次年度以降も楽しく充実した教育普及活動を展開し、ご提供できるよう取り組んで参ります。

最後になりましたが、今年度もトークイベントやワークショップ等に関わっていただいた多くのアーティストや講師の皆様、展覧会関係者の皆様、そして美術館を支えていただいているボランティアの皆様、たくさんの方々のお力添えのおかげで、この報告書をまとめることができました。この場をお借りし、ご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げますと共に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り致します。

沖縄県立博物館・美術館

美術館教育普及担当 主任学芸員 玉城早苗

令和6年度
沖縄県立博物館・美術館
《美術館教育普及報告書》

2025年3月31日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL 098-941-8200 (代表)
FAX 098-941-2392 (代表)

教育普及担当
玉城早苗 (沖縄県立博物館・美術館)
又吉貴美子 (沖縄県立博物館・美術館)
保久村智恵 (一般財団法人 沖縄美ら島財団)

印刷
企画印刷 ハーツ
那覇市繁多川3丁目13番8号
TEL 098-835-3752
FAX 098-835-3754